

学校法人 名古屋国際学園 Nagoya International School

今、最も注目されている幼児教育 レッジョ・エミリア

それは去年の8月、長い夏休みが終わり、再び学校に生徒達の元気な姿が戻って来た頃のことでした。プリスクールとキンダーガーデンの子ども達は、夏休みの間に自分たちのプレイグラウンドに起きた大きな変化に気づきました。新しいフェンスが出来ていたのです。

「これなあに？」と子ども達から聞かれたら、大人はどう答えるでしょう？それが「フェンス」というものであること、そしてそのフェンスの目的や役割を、噛み砕いて説明するのでしょうか？しかし、「レッジョ・エミリア方式」を実践するこのプリスクールでは違います。子どもの質問に対し、大人が答えを与えるのではなく、「あなたははどう思う？」と問いかけ、答えを探るよう促します。どうしてそこにフェンスが出来たのか、何の為にそこにあるのか・・・こうしてフェンスにまつわる一大プロジェクトがスタートしました。

● 子ども達の 100 の言葉

「レッジョ・エミリア方式 /Reggio Emilia Approach」とは、第2次世界大戦後間もなくイタリアの地方都市、レッジョ・エミリア市で生まれた幼児教育法です。元々は、ようやく戦時下の圧政から解放された地域の人々が、未来を担う子供達のための教育の場をつくらうと力を合わせ、文字通り自分たちの手で建てた幼稚園がはじまりでした。1991年、ニューズウィーク誌の「世界で最も優れた10の学校」としてレッジョ・エミリアの幼稚園が紹介されたことから、世界中の幼児教育関係者から一躍脚光を浴びる事となりました。

レッジョ・エミリアを語る上で欠かせないのが、創設者の1人であるロリス・マラグッツィ氏の詩で、レッジョ・エミリアの理念とも言える「子ども達の100の言葉 /The Hundred Language of Children」です。要約すると、「子どもは100の言葉、考え方、聞き方、話し方、理想、驚き方、愛し方・・・を持っているのに、学校や文化がそのうちの99を奪ってしまう」・・・これは何を意味するのでしょうか？

●フェンスにまつわるプロジェクト

話をフェンスのプロジェクトに戻しましょう。

新しいフェンスに興味を示した子ども達に、教師はフェンスとは何だと思おうのか尋ねました。話し合いの結果、フェンスは家やお店、動物園などにあり、その目的は人や動物が入れないように、または出られないようにするためにあるという結論に達したようです。折しも学校ではプレイグラウンドの中に花壇を作る計画が進行中でした。そこで、プリスクールとキンダーガーデンの子ども達が新たに自分たちの花壇のフェンスを作ることになりました。

まずは、フェンスについてのリサーチです。いろんな場所にある、いろんな形や大きさのフェンスの写真を見比べました。背の高いフェンス、低いフェンス、隙間があるフェンス、ないフェンス、木製、竹製、金属製、ロープが張ってあるフェンス・・・とにかく様々な素材や形のフェンスがあることが分かりました。どうしてそんなにいろんな種類のフェンスがあるのでしょうか？ 熊が入らないため、犬が逃げないため、危険な場所に近寄らないようにするため、中が見えないようにするためなど、意見を出し合いながら、自分たちの花壇にはどんなフェンスがふさわしいか考えました。3歳の小さな子でも中の花壇が見えるような背の低いものにしようという意見も出ました。実際に身の回りにどんなフェンスがあるのか、みんなで学校の周辺を歩いて探してみました。こうして、

